

「2018年8月1日以降に川崎医科大学総合医療センターで、消化器癌または胸部悪性腫瘍の手術を受けられた患者さんへのお知らせ」

「ヒト消化器癌、胸部悪性腫瘍オルガノイド培養系のゲノム医療への応用」について

研究の目的

2018年8月以降に当診療科において消化器癌または胸部悪性腫瘍の手術を受けられた患者様を対象に、手術時また生検時に切除、採取された癌組織の一部を小型臓器（オルガノイド）に育て培養し、そのゲノム情報から有効な抗癌剤・分子標的薬剤を選定し、抗腫瘍効果を解析することで、個別化医療における薬剤評価系（各種癌から作成した Organoid に対し、分子標的薬の有効性の指標となるバイオマーカーを調べ対応する薬剤の感受性を MTT assay にて確認する（e.g. 肺腺癌においては、EGFR、PIK3CA 変異、ALK・RET・ROS1 融合遺伝子の同定と EGFR チロシンキナーゼ阻害剤、PI3k 阻害剤、ALK 阻害剤への感受性確認。大腸癌においては KRAS 変異の有無と EGFR 阻害剤への効果確認。）の構築を目指した基礎研究を行います。研究期間は、倫理委員会承認日から 2023 年 8 月 31 日までです。

この研究で得られたデータを、学会や医学専門誌で発表することがありますが、個人情報に関するプライバシーの保護には十分に配慮します。研究に関するデータ及び試料は学会での発表から5年後に廃棄いたします。研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が生じ、結果の判断にひずみが生じかねない

状態を利益相反状態といいます。この研究では学内研究費のみを使用します。また、この研究課題を実施する関係者は、中外製薬(株)、ファイザー(株)、武田薬品工業(株)より奨学寄附金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。

またこの研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の審査・承認を得ています。同意を撤回される希望のある方及び、本研究に関するご質問等のある方は下記連絡先までご連絡下さい。尚、同意いただけない場合は研究対象といたしません。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

問い合わせ先 川崎医科大学総合医療センター 外科 副部長 深澤 拓也
電子メール surgery@med.kawasaki-m.ac.jp
TEL 川崎医科大学総合医療センター代表(086-225-2111)
外科医局(内線 85129)
FAX 086-224-6821